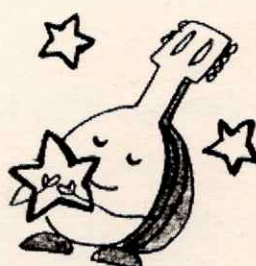
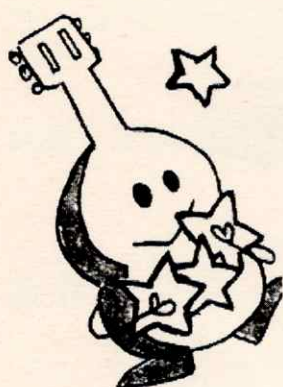


Mandolin Concert

相模原マンドリン倶楽部

第 19 回定期演奏会



2003.5.24 (土)

開場 1:30pm 開演 2:00pm
グリーンホール相模大野 大ホール

ごあいさつ

本日は、第19回定期演奏会にご来場いただきましてありがとうございます。前回の演奏会から、1年8ヶ月が過ぎ、部員一同、この演奏会を目指し、力強くかつ心に迫る演奏をご披露できるよう、練習を続けて参りました。

いつも思うことですが、次の演奏会の準備に入る時期には、様々なことを考えなければならず、不安がつきまといます。しかし、倶楽部員（当クラブでは伝統的に「倶楽部」と漢字で書きます）のマンドリン音楽に対する飽くなき情熱と、気心の知れた仲間達との合奏の楽しみが、すべての不安を解消してくれます。

私達は、これからも共に合奏できる仲間を信じ、マンドリン音楽を愛していきたいと思えます。

どうぞ最後までごゆっくりご鑑賞ください。

そして、ご意見、ご感想などを頂けましたら幸いです。

相模原マンドリン倶楽部
代表 飯田正男

活動記録

- 2001年9月29日（土） 第18回定期演奏会
（グリーンホール相模大野大ホール）
- 2002年4月21日（土） 第21回神奈川マンドリンフェスティバル
（横須賀市文化会館大ホール）
- 2002年7月13日（土） 第8回部内発表会
（相模原総合学習センター）
- 2003年3月22日（土） 第19回定期演奏会に向けて合宿
～23日（日） （厚木市飯山 日立ユニシア研修センター）
- 4月13日（日） 第22回神奈川マンドリンフェスティバル
（秦野市文化会館大ホール）
- 5月17日（土） 第19回定期演奏会に向けて強化練習
（相模原総合学習センター）

プログラム

【第1部】

指揮 大矢利夫

歌劇「フィガロの結婚」序曲

作曲 W. A. モーツァルト

編曲 喜多満鳥

「グリーンズリーヴズ」による幻想曲

作曲 R. ヴォーン・ウィリアムズ

編曲 喜多満鳥

映画「タイタニック」よりタイタニック

作曲 J. ホーナー

編曲 喜多満鳥

黄昏 ～前奏曲～

作曲 M. D. ベルッティ

喜歌劇「愛の悪戯」より第一幻想曲

作曲 U. ボッタキアーリ

編曲 石村隆行

== 休憩 ==

【第2部】

指揮 小林淳子

シリウスへの帰還

作曲 A. C. ミゲール

12:00

組曲「ナポリの風景」

I サンタルチアの祭

II ポジリポ地方の唄

III 入り江を照らす満月

IV 祭日の悪戯っ子

作曲 I. クロッタ

編曲 石村隆行

星空のコンチェルト

作曲 藤掛廣幸

曲目解説

【第1部】

歌劇「フィガロの結婚」序曲

本歌劇はボーム作の同名の戯曲に基づくもので4幕からなり、権力に逆らう機知にとんだ庶民の姿をいきいきと描いたモーツァルト最大の人気作です。

モーツァルトは「後宮からの誘拐」以降のオペラで、序曲とオペラ本体とを何らかの形で結びつけようという傾向を示しているが、この序曲には直接の結びつけを示すものはありません。しかし、本序曲は、18世紀オペラ・ブッフア（喜歌劇）の序曲の代表的なものとして、しばしば単独で演奏されます。

「グリーンスリーヴズ」による幻想曲

ヴォーン・ウィリアムズは20世紀前半のイギリス国民主義を代表する作曲家で、エルガーと並ぶイギリス音楽復興の指導的立場の一人で、常にイギリスの古い民謡から民族的感覚を受け、聴衆にわかりやすい平易で感動的な曲を残しています。

本曲の原曲は、シェイクスピアの「ウィンザーの陽気な女房達」に基づき、ヴォーン・ウィリアムズが書いた歌劇「恋するサー・ジョン」に採用されたイギリスの民謡を2曲組み合わせ、フルート2本とハーブに弦楽5部の編成にまとめたものです。3部形式の曲で前後に「グリーンスリーヴズ」、中間部に「愛しいジョン」という民謡が使われています。

映画「タイタニック」よりタイタニック

ホナーは、1953年アメリカ・ロサンゼルス生まれですが、ロンドンにて作曲を学び、映画「スター・トレック2」の映画音楽でメジャー・デビュー。以後「フィールド・オブ・ドリームス」「アポロ13号」「デビル」等、話題作を精力的にこなし、本映画の世界的ヒットにより映画音楽界での地位を確立しました。

本曲は映画の中から、「サザンpton」より輝かしい出航と不吉な予兆、「マイ・ハート・ウィル・ゴー・オン」より愛とロマン、「エンディング」より深い悲しみをもとめて、マンドリンオーケストラ用にまとめたものです。

黄昏 ～前奏曲～

ベルッティはイタリア・カサーレに生まれ、同地で音楽教育を受けた。イル・プレットロ作曲コンクールで「モスコーの真昼」「黄昏語る時」が共に一等入賞してにわかに脚光を浴びました。

彼の作品は当時のイタリアマンドリン界に対し、リズム・旋律に新風を加え、魅惑的で美しい曲が多く、本曲は「ハンガリアの黄昏」「黄昏語る時」と共に彼の黄昏三部作として知られています。

喜歌劇「愛の悪戯」より第一幻想曲

ボツキアーリはイタリア・マチェラータのカステルライモンド生まれの作曲家で、数度の作曲コンクールに入賞して金杯を受けた管弦楽曲、室内楽曲、声楽曲があります。マンドリンオーケストラの作品では、「交響的前奏曲」「夢うつつ」「イル・ボート（誓い）」「夢の魅惑」など夢幻的な作風が見られます。

本喜歌劇は、もともと「奥様達の楽園」として知られていましたが、ウグウスト・ランツォーニの台本により、3幕としてボローニャのコメリー社から出版されました。本第一幻想曲は作曲者自ら主要な旋律を抜粋して管弦楽演奏会用にまとめられました。中間部の旋律は、切なく感傷的で聴くものの心を捉えています。

【第2部】

シリウスへの帰還<Back to Sirius>

作曲者のミゲール(1956～)は「夏の組曲」等、何曲かのマンドリン独奏の為の曲を作曲しています。この曲も元々はゲルトルート・トレスター(マンドリン)、ミヒャエル・トレスター(ギター)の夫婦デュオである「デュオ・カプリチオーソ」の為に作曲され1995年に初演されました。本日演奏されるのはミヒャエル・トレスターが1996年にマンドリン合奏用に編曲したものです。この曲について作曲者自身、次のように解説しています。

「バック・トゥー・シリウス」は、宇宙船でシリウスに帰還するという想像の旅(残念ながら現在ではまだ実現不可能なことです)を描いています。シリウスという恒星は地球から9光年離れたところに位置し、地球から最も明るく見える星です。第一楽章では、出発前の興奮から歓喜の出航へ、第二楽章では宇宙空間の無重力状態のなかでのロマンス、そして数々の危機的な状況をくぐり抜けフィナーレでは感動的な帰還を描いています。

組曲「ナポリの風景」

作者の経歴は何一つとして知ることができないが、1940年ローマで出版された「イタリア音楽家年鑑」にはミラノ在住の作曲家・オーケストラ指揮者として登録されています。

作品は、「ブルレスカ」「夢」「無言歌」「組曲・沼地にて」など多くのオーケストラ曲がありますが、いずれの作品もロマン的で旋律美に溢れた作品となっています。本曲は、G.De.Micheli や A.Amadei の組曲を出版したサンレモのC.Beltramo社より1939年に発表されたオーケストラ組曲で、古き良き時代のナポリの風景を、躍動感ある親しみやすいメロディーで描写した音楽スケッチです。ややもすれば通俗的になりやすい題材ではありますが、明快なオーケストレーションと和声処理によって器楽的な魅力ある作品となっています。

(編曲者 石村隆行 記)

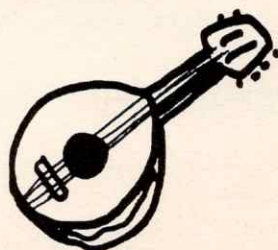
星空のコンチェルト

1996年2月3日、アーベントムジークコンサートで初演されました。

以下は、作曲者藤掛廣幸氏が、この曲について語った言葉です。

夜空に輝く無数の星達。「夕べの音楽」という意味のドイツ語である「アーベントムジーク」から連想を広げて、マンドリンの繊細な音色ときらめく星達との関連に思い至った時、一気に楽想が沸き上がり増殖を始めました。

「コンチェルト」というタイトルを選んだのは「音」そのものの美しさを追求し、バロック音楽の「合奏協奏曲」を現代に蘇らせたい、という意図があったからです。



出演者

◎ トップ
○ サブ

Conductor

第1部 大矢利夫 第2部 小林淳子

1st Mandolin

◎ 窪田成子	○ 木田絹子	藍澤桃子	石本友子
大矢利夫	岡崎 舞	川崎紘子	仁尾真里
濱地すぎの	舟田徳穂	山崎了三	

2nd Mandolin

◎ 福谷隆治	○ 池田百合子	饗庭裕子	綾部文子
江原徳至	城戸かほる	野沢孝広	樋口忠雄
藤枝春代	古田栄治	本田博子	吉野昌重
渡辺礼子			

Mandola Tenore

◎ 寺田美千代	○ 森 順子	大熊友子	岡林誠士
長澤直子	笛木和美	水野和則	峯田福代
宮下和子			

Mandolon Cello

◎ 井上昌子	○ 金澤葉子	飯田正男	市川久美子
小林淳子	中井顕成	錦戸民子	

Guitar

◎ 原田 治	○ 田中厚子	池上由子	石本久博
加登文子	長沢久美	新田美佐子	宮本紀子
柳生秀人	和田真紀子		

Mandolone

宮本皓永

Contra Bass

◎ 鈴木保彦 ○ 錦戸雅子

Announce

大矢和子 (賛助)

相模原マンドリン倶楽部 連絡先

飯田正男
